

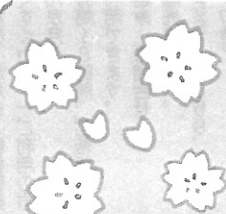
明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集「明日にむかって」編集委員会 発行日 2013年3月23日
住所 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03-3956-1068(陽光保育園)

70号

2月18日、板橋区で保育園の入園内定発表がありました。陽光保育園でも17人の新しい子どもたちを迎え入れるために、入園児のお宅への家庭訪問を開始しています。その一方で「職場復帰しようとして7つも希望園を書いたのにどこにも入れず仕事を辞めるしかない」と言うお母さん。また、お父さんが単身赴任、1人で2人の子を育てなければならぬのに下の子が兄とは別の園になり、必要な時間の保育が受けられないと言うお母さんは「教師の仕事はどうやって続けていけるのか?」それでも入れたからよかったと言わなければならないのか?と複雑な思いを語っています。深刻な実態を目の当たりにして、頭を抱えます。そんな折「保護者の行動が行政を動かした!」杉並の記事を発見。雨の中、区役所前で不承諾通知をもらった母親たちが赤ちゃんを連れて抗議の声をあげたのです。保育園に入れなかった1,800人の人と手を組んで「ふやし隊」(保育園)という会を作って活動し、ついに議会で「状況に即した保育室の整備を進める」との答弁にこぎつけたそうです。(H・T)

五感を育てる 保育



保育園では時々迷子の洋服やタオルがあります。「これは誰のかな?」とたずねると、「子どもたちがやってきて匂いを嗅ぎ、「これ〇〇のズボンだよ!」と教えてくれます。だいたい間違いがありません。子どもの五感は研ぎ澄まされています。文字に頼らず、他人の情報に振り回されず、自分の舌で味わい、肌で感じ、見て、聞いて、その感覚を深く心に刻む。子どもは自分自身が感じたままを信じて育ちます。陽光会では、そんな子どものための当たり前の毎日をもっと大切にしています。五感を通じた遊びのひとつは「あーあー」とも、子どもへの基本的な発達を促す。今回は、そんな保育の一端をご紹介します。

※0,2,4歳児は陽光保育園
1,3,5歳児は北町保育園の実践です。



1歳児

今年、1年を通して感覚遊びをたくさんしました。米粉、白玉粉、寒天など、身近にある素材を使って「なんだろ?」と触ることから遊びを始めました。サラサラ? じゅわん? 温かい? 不思議な感覚遊びは子どもたちが真剣な顔つきになる遊びのひとつです。9月、絵の具を何色も溶かして凍らせて作った「絵の具水」で遊んだときのこと。「あれ?」「クレヨン」のようだけど、触ると冷たい!?!? 紙の上を滑らせる。いろいろな色が広がります。水に浮かべてみたり、カップに集めてみたり、楽しみ方はそれぞれ。Kくんは紙にくるくると丸を描いています。Hくんは黄緑色の氷を手に、思わず「あーん」と口をあけたほど。全部の氷をタライに入れて、解かしてみると、カフェオレのような色になりました。素材の変化を楽しむことで、五感を刺激しながら、小さな研究者たちは黙々と実験を楽しみます。



0歳児

4月に入園したころはまだ3カ月だったSくん、Mちゃん。オムツが汚れると泣いて訴え、オムツを替えると気持ちよさそうに手足をバタバタさせていました。陽光保育園では、乾いた布オムツを水で絞ってお尻を拭きます。赤ちゃんは冷たくてブルツとしますが、この刺激で身体が強くなっていきます。また、お尻を出したまま保育士が歌をうたいながら足をさすってあげると、心地よさそうに「あーあー」とかいい声を出します。こんな小さいころから不快がしつかりわかっていきます。赤ちゃんは、まだ言葉で気持ちを伝えられませんが、いろいろなことを感じていきます。「気持ちわるいよー」「冷たい」「心地いいな」「優しい歌声だなー」など、たくさん感じながら大きくなっていきます。



2歳児

毎日のように散歩に出かけるなかで、季節を感じています。暑い夏は日差しの強さ、寒い冬は北風の冷たさを感じ、木々や草花の変化にも目をとめます。きれいな葉がある「ママにおみやげ」と、手にもポケットにもいっぱい拾い集めたり、かわいい花が咲いていると「いいにおいする」と足を止めたりと、日々自然と触れ合っています。落ち葉の季節は落ち葉の上をカサカサと音を立てて歩くのが大好き。落ち葉をかき集めて山にしたり、パーツと撒いて遊んだり。「おめでとー」と言いながら、友だちと葉っぱを合せて大笑いします。そんな落ち葉の時期に盛り上がる遊びが「むっくくまさん」。「むっくくまさん」の歌を歌いながら、クマ役の寝ている子に葉っぱをかけていくと、寝ていたはずのクマさんが目を覚まします。葉っぱまみれになってもなんのその、クマさんは「食へちゃうぞー」と皆を追いかけます。かわいいクマさんが暴れまわれば、公園中で「ワー、キャーキャー」。追いかけるのが大好きな2歳児は、クマ役を交代しながら何回も繰り返し遊びます。目で、耳で、鼻で、肌で、自然をいっぱい感じとっている子どもたちです。



3歳児

年間を通じて色彩活動をしました。絵具で手型・足型をついたり、ボディペインティングや、大きな紙に筆を使って絵を描く、運動会の入場門づくりでの段ボールの色塗り、絵具と筆を使った活動です。12月の「大きくなったね」の装飾づくりでは、異年齢のグループでもみの木づくり。和紙を色染めして、ちぎって糊付け(ちぎり絵)。3歳児には少し難しい活動でしたが、この経験をいかし、節分に向け、大きな段ボールを使って鬼づくりに取り組まれました。子どもたちと相談して「青鬼」と決め、和紙を青く染め、3グループに分かれ、3つの段ボールを顔・胴・脚の部分とし、張子のようにつけて完成させました。目は? 牙は? おへそは? 髪は? と次々と子どもたちが考えながらつくっていき、完成させてからは、広告紙を丸めて「豆」にし、ぶつけて遊びました。単に感覚を育てるだけでなく、総合的な活動としての鬼づくりになりました。



5歳児

土踏まず形成の完成期でもあるので、足裏の刺激はこの時期とても大事です。五感のなかでも最初に発達するのが皮膚感覚なので、赤ちゃんのときから裸足で過ごすことはとても大事なのですが、ただ刺激するだけでは発達しません。足の骨、関節の使い方、歩行や運動神経とともに足は発達します。5歳児は毎日雑巾がけに取り組みできました。体幹や脚力、足の親指の蹴りの力など、子どもの発達にとっても大切な部分を育てるためです。雑巾がけをするなかで、足裏の刺激により、正しい歩き方、正しい足裏の使い方につながっていきます。立ち姿がしっかり立つと、心も安定します。立ち姿がしっかりしてきて、歌を歌う姿も背筋が伸びてきます。給食時、テーブルにつく姿も食へる姿も変わってきました。足裏感覚は、一本心の通った幼児に変えていきました。



4歳児

毎日歌を歌っています。ピアノと一緒に歌ったり、伴奏はなくても散歩のとき歩きながら、給食の前に食事が来るのを待ちながら、遊びのなかでなど、さまざまな場面で歌います。年中おなじみの歌もあれば、初めての歌を歌うこともあり。おなじみの歌は歌詞もわかり自信をもって大きな声で歌うけれど、新しい歌のときは、はじめは「どんな歌かな?」と耳をすまし、歌う大人の口元をじっと見つめています。大人は楽譜を見ながら歌うなかで覚えていきますが、子どもたちは大人が歌うのを聞いて覚えていきます。最近歌い始めた「若い月たちのうた」は動物の名前がたくさん出てきます。大人は必死に歌詞を見ますが、子どもたちはくり返し歌うなかでどんどん覚え、2,3日もするとほぼ歌えるようになり、友だちと一緒に声を合わせると、気持ちも乗っていつと声が大きくなり、自信もって歌えるようになっていきます。

親子でいっしょにあそびましょう

●陽光保育園●

2013年度も、保育園の子どもたちが日ごろ遊んでいる「砂遊び」と「リズム遊び」を主に計画しました。これまでに参加されたみなさまからも「家庭ではできないことができてよかった」「とても楽しかった」など、たくさんの感想をいただいています。公園ではできない遊びが体験できますよ。親子で気軽に遊びにきてください。無料です。
場所 陽光保育園(板橋区大谷口上町23-1) ☎3956-1068
時間 午前9時30分~11時(赤ちゃんは10時30分まで)
対象 0歳児~就学前のお子さんと保護者
*参加ご希望の方は実施予定日の3日前までにお電話ください。
*動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。
*お天気により変更する場合があります。
*0歳のお子さんは、室内にて、赤ちゃん体操・あやし遊びなどでゆったり過ごします。

2013年度◆年間予定

4月23日(火)	5月28日(火)	6月11日(火)
7月17日(水)	8月20日(火)	9月10日(火)
10月30日(水)	11月26日(火)	12月10日(火)
1月21日(火)	2月25日(火)	3月4日(火)

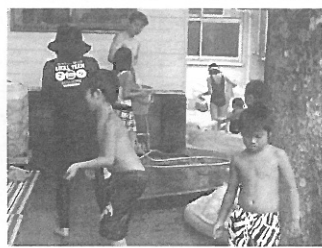
* 9月:看護師が「健康」について相談を受けます。
* 10月:栄養士が「食」について相談を受けます。

一般

子どもたちが自分の目で見る、耳で聞く、鼻で嗅ぐ、肌で感じる、食べて味わう、「五感」をたくさん使っていくことはとても大切です。「あーいキッス」で遊ぶ子どもたちは、校庭の草花や木の実、虫、そして土や砂、池の水などに自らすすんで触れ、汚れることも気にせず遊びの材料としています。きつとそのとき、それぞれの色や形、匂いや感触などを感じとっているでしょう。四季折々変化する自然に接している子どもたちは、無意識にその変化を体感しているのだと思います。一方室内では、さまざまな素材を使用した造形活動(工作)も行っています。アルミやプラスチック、紙など、それぞれ特色を感じながら作業に取り組みんでいます。このような体験を日常的に積み重ねていくことで感性が磨かれていくのでしょね。

板十小あいキッズ

子どもは、水や砂など自然のものに触れて遊ぶことが大好きです。学童クラブの子どもたちも、春の「ピカピカ泥団子」づくりに始まり、水や泥でたくさん遊んでいます。少し自閉症の傾向があり、去年までは水や砂が服につくことも気にしていた「くくん」が、今年の夏休みは思いきり泥を投げて、みんなと一緒に遊びました。いやがっていた水を飲み、泥に興味を持ったことは大きな成長です。今年は、陽光保育園の砂場にみんな遊びにもいきました。大きな穴を掘って水を流し込むなど、ダイナミックな遊びで、子どもたちの心や身体が解放されていくのがよくわかりました。小学生の放課後の自由な時間は年々短くなっていきます。そういったなかでも五感をフル稼働させる「遊び」の時間はとても重要だと感じています。



どうなる?! 子ども・子育て新システムの行方

◆保育にも「格差」の危機!!

多くの保育関係者が反対の声をあげてきたにもかかわらず、昨年夏「子ども・子育て関連3法」が国会で成立、2015(平成27)年4月から「子ども・子育て支援新制度」がスタートすることになっています。

内閣府・文部科学省・厚生労働省は「教えて! 子ども・子育て支援新制度」というパンフレットを発行し、理解を促しています。このパンフレットには、地域のニーズを踏まえ市区町村が、認定こども園や保育所、小規模保育などを組み合わせ、待機児童の解消をめざすと書いてあります。しかし、このやり方では基準を緩めた形で運営される施設も「地域型保育施設」として認められるため、市町村によって受ける保育の格差が持ち込まれます。さまざまな基準の園が増えれば選択肢が増えるという意見もありますが、入る園によって利用料も違えば、受ける保育の基準も違うということになってしまふのです。

実際、猪瀬都知事は「スマート保育所」という新たな保育施設の運営をスタートさせようとしています。自身は認証保育園よりも低い基準のものです。また保育料は、「所得に応じた負担が基本」としながらも、「必要経費を上乗せして徴収」できると書かれています。板橋区は2013年度、「学童クラブの利用料の値上げ」を決定し、14年度にむけては保育料の値上げも検討されています。

では保育料の値上げも検討されています。このままでは、保育の質は下がるのに保育料は上がるという事態になってしまいます。先日、来年度の保育園入園の予定が出ましたが、「保育園に入れないので仕事を辞めるしかない」と言う地域のお母さんもいます。パンフレットをよく読み込み、「いま、自分たちが求める保育園はどんなものなのか」「保育園が足りないのなら今の基準で増やして欲しい」などの声を各自治体に訴えていく運動が大切になっていきます。(保育士 若林雪子)



続 子どもの世界

3 歳児 — 家庭で

朝、お母さんが「保育園に行こう」と声をかけると、「寒いからいやだ」というKくん。「なにを言ってるの。子どもは風の子だから大丈夫よ。寒くないよ」とお母さん。「えっ? ほく、風の子じゃないよ、ママの子がいい」とベソをかいたKくんでした。

1 歳児 — 保育園で

給食の時間、Yくんが座った席から屋上が見えました。天気の良い、ちょっと風の強い日でした。屋上には、洗濯物のタオルが干してあります。風に揺れるタオルを見て、Yくん、「お洗濯がブランコしてるね」

1 歳児 — 保育園で

保育室の窓から近所の風景が見えます。大きな建物が解体作業をしています。そこに、子どもたちの大好きなショベルカーがやってきて、建物をどンドン取り壊していききました。ショベルカーが瓦礫を持ち上げている姿を見てTくん、「シャベルカーが、ごはん食べてるね」一緒に見ていた子どもたちも、「ほんとうだ、ごはん、いっぱい食べてるね」

ごあんない



川上小百合さん個展会場

川上小百合さんの個展を開催しました

2月10～11日、陽光保育園ホール 陽光会後援会主催

現在小学4年生の私の長女と陽光保育園で同じクラスだった、ちぐさとなつきのお母さん、川上小百合さんが天国に旅立ってから1年。ぜひ小百合さんの温かな絵をもう一度見たい、ふれたいと私たちがはずっと思い描いてきました。その願いが実現し、陽光会後援会をはじめたくさんの方のおかげで、個展を開くことができました。陽光のホールいっぱい小百合さんと皆の温かな思いが広がりました。またひとつ、新しい思い出が増えたね。どうもありがとうございます。小百合さん。(安藤陽子)



(安藤陽子)

ようこうほいくえんの

一時保育

◆こんなときにご利用ください

- 保護者の就労・求職・通院・職業訓練・通学・看護・介護など。
- また保護者の傷病・被災・事故・出産・冠婚葬祭などの緊急時。
- 保護者の子育て不安・リフレックシユなど。
- 育児相談(健康診断等)で、お子さんが保育園での保育が必要と認められたとき。

◆利用日・利用時間など

- 月曜日・金曜日の9時～17時(土・日・祝日・年末年始休)
- 1歳以上で、離乳の完了しているお子さんから。ただし、板橋区発行「すくすくカード」(利用の方は生後10か月から)。
- 一日1時間～8時間。(希望の時間帯で利用できます。)
- ◆お申し込み・お問合せ 直接、陽光保育園へ。(電話番号)10900 受付時間10時～17時
- 緊急時以外は、なるべく利用される10日前までに申し込んでください。
- 事前面接をしていただき、利用日・利用時間を予約していただきます(親子でおいでください)。
- 利用料その他、詳しくは陽光保育園までお問い合わせください。

建築資金

◎寄付のご協力ありがとうございます。(2012年11月11日～2013年3月8日/順不同・敬称略)

北澤三千子、渡辺せい、高久マサミ
陽光会職員有志(平和盆踊り実行委員)

◎財政活動
陽光Tシャツ販売、食品販売、リズム講師派遣

◎2012年度報告～社会福祉法人陽光会・建築財政連絡会より

寄付金(個人)	381,054円
財政活動(食品・Tシャツ販売等)	302,100円
バザー収益(土地購入借入金120万円返済差引き後)	201,895円
計	885,049円

2012年度の寄付金、財政活動などの合計は885,049円になりました。皆様のご協力、ご支援に心から感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしく願っています。

◎寄付のお願い(1口5000円/何口でもけっこうです)
郵便振替口座 00140-0-260468 名義 陽光保育園建設委員会
*上記口座にお振込いただけるとさいわいです。領収書が必要な方はお書き添えください。寄付金控除の対象になります。

沖縄戦とおきなわの心

シリーズ 戦争と私

高橋悦子

昭和52年、高校を卒業後就職のため沖縄より上京しました。本土へ行くことに、周りの大人たちの大反対がありました。それは、昭和20年3月から3カ月間に及んだ沖縄戦で苦しんだからでした。住民を守るはずの日本兵によって防空壕から追い出されたり、食糧を奪われたり、泣いている赤ん坊を殺されたなど、沖縄の人々はアメリカ軍にも日本兵にも苦しめられたからでした。

沖縄戦では、日本兵約6万6000人、沖縄出身の兵士と住民を合わせて約12万2000人が犠牲となりました。県民の4分の1の命が失われたのです。

私の母は、当時9歳。家庭の事情で両親と離れ親戚に預けられていたのですが、戦争によって家に一人残され生活していたそうです。その話は、甥っ子(私の妹の子)が8歳くらいごろ、聞かされたそうです。甥っ子は、「一人だったら、誰が電気つけてくれるの? 前髪が伸びたら誰が切ってくれるの?」と、大泣きしたそうです。

私は、今まで母の子ども時代について聞きたくても聞けずじまいました。毎年くる6月23日の慰霊の日、母が遠い目をしていました。今回この原稿の依頼を受けて、この機会に少し認知症となっている母に聞いてみたところ、

「戦争のときは、子どもだったから、何も覚えてないさー」と言いました。忘れることで救われているとも思いました。

昨年、NHKテレビで放映された「沖縄戦 心の傷～戦後67年初の大規模調査」を観ました。沖縄県内各地で、戦争で生き残った高齢者に「精神状態の聞き取り調査」を行った記録です。原因不明の「身体の痛み」や「不眠」を訴える人が増えてきたことから始まったこの調査でわかってきたことは、不調の原因は遅発性のPTSD(戦争トラウマによるストレス障害)ではということや、またそれは、戦後長きにわたる基地と隣り合わせの生活も影響しているのではということです。

戦争で受けた心の傷は、まだ癒されていないままですが、沖縄のことわざ、「ぬちどったから」(命は宝物であり、最も尊いものである)や「いちやればちよおでえー」(出会う人は兄弟のようなもの)……の心を忘れず大事にすることだと思えます。

■陽光会後援会・春の交流会
日時 4月28日(日) 11時～14時
場所 板橋区立平和公園
(上板橋駅北口徒歩5分)
ときわ通り・教育科学館そば
参加費 大人 1人500円
(子ども、新会員は無料です)
*新会員の方の歓迎会もかねた交流会です。焼き肉、焼きそばなどを作ります。皿、箸、コップ、おにぎりなどをお持ちください。

■陽光会後援会総会
日時 5月24日(金) 19時～21時
場所 陽光保育園ホール

■陽光保育園 夏のバザー
日時 7月7日(日) 10時～14時
場所 陽光保育園

お父さんの出番です!!

水泳教室と一緒に通う

重光が水泳を始めたのは3歳の中ごろです。本人がやってみたいと言ったわけではなく、単純に私が中学まで水泳をやっていたのと、重光の体を強くしたいという思いからでした。

人見知りや激しかったので、まずは親子教室に通い始めました。通ううちにだんだんと水に顔を近づけられるようになり、潜れるようになり、やがて体も成長してプールで大分足がつくようになると同時に恐怖心も薄らいできたようです。水泳が楽しいと言いはじめました。

そうしてようやく教室にも水にも慣れたころ、次のクラスに進みました。そのクラスからは親子水泳ではなく、一人で泳ぐことになりました。初めての一人での水泳とき重光は、更衣室で泣き叫び、泣き止まないまま水泳指導の先生に抱かれてプールに連れていかれました(先生も、そういう子どもには慣れているようでした)。

そのうちに、泣き叫んでも仕方がないということが解ったようで、泣くことはなくなりましたが、その代わりに知恵をめぐらして事態の解決を図るようになってきました。たとえば、こんなことがありました。

- ・さりげなく列の後ろのほうに行き、自分の前にどんだんほかの子を割り込ませて、泳ぐ回数を減らす。
- ・水着に着替えたあと、入ったふりをしてプールのトイレに隠れる。
- ・プールにいったん入ったあと、先生にトイレに行くと言って帰ってこない。
- ・ほかにもいろいろと言いつつ考えてくるので、腹立しい反面、頭を使うようになったなあ、次はどんな手を使ってくるのかなあと楽しくも感じました。

現在は保育園の友だちも同じ教室に通うようになり、それが大分刺激になったようです。負けたくない・追い越されたくない、欲が出てきたようです。体の成長のみならず、精神の成長もつかえて、大きくなったものだと思えます。

(陽光保育園4歳児クラス・重光の父 鈴木亮)